

# 天誅組志士『原田亀太郎展』

五條市立民俗資料館

原田亀太郎(1838-69)は備中高梁（現在の岡山県高梁市）出身の天誅組関係の人物です。亀太郎は高梁の商家に生まれ、森田節齋や谷三山のもとで学ぶなかで、尊王攘夷の考えを主張するようになっていきました。文久3(1863)年天誅組に参加し、各地を転戦しましたが捕らえられ、翌元治元(1864)年7月20日京都にて処刑されました。

今回、亀太郎の子孫にあたる方から原田亀太郎に関する資料の寄贈をうけました。亀太郎自身に直接関係する資料は少ないですが、明治以降の天誅組関係者の交流や顕彰などがわかる貴重な資料です。

## 1 原田亀太郎肖像画写真

原田亀太郎肖像画の写真。肖像は石川晃山画、賛は当時倉敷に居住していた森田節齋によるもの。亀太郎の父市十郎は亀太郎の死後、肖像と亀太郎の獄中からの書状を節齋のもとに持参し、賛を依頼した。



## 2 原田亀太郎獄中書（写真）

亀太郎が京都の獄中から父市十郎に宛てて出した書状。自らの血にて文字を書いたといわれている。天誅組に参加し、生け捕りとなり京都の獄中にいること、父母に迷惑をかけ親不孝であったこと詫びている。市十郎はこの書状を森田節齋に見せ、賛を依頼している。

## 3 祭祀料伝達書

小田県（現在の岡山県西部・広島県東部）から亀太郎の父市十郎へ亀太郎祭祀料として金20円下賜を伝えたもの。

## 4 靖国神社合祀通達書

亀太郎が靖国神社に合祀されたことを通達したもの。靖国神社は幕末維新の政争、内戦での官軍側の死亡者、明治以降の戦争での戦死者を祭神とする。備中松山藩は藩主板倉勝静が老中首座であったことから「賊軍」とされた。そのため、亀太郎は幕末の備中松山藩の人物で靖国神社に合祀された唯一の人物であった。

## 5 原田久太郎宛水郡長義書状

天誅組に参加した水郡善之祐の子長義（英太郎）から亀太郎の甥久太郎に宛てた書状。当時金沢に居住していた長義が同じく天誅組に参加した田中楠之助らへの贈位奉吉祭に参列したことなどを記している。

## 6 原田久太郎宛水郡長義書状

中山忠光の兄弟関係について説明した書状。中山忠光の兄にあたる人物の維新後の状況について記した後、この人物の行動に対して注意を払うよう伝えたもの。

## 7 原田久太郎宛水郡長義書状

書状を冊子体に整えたもの。長義ら河内勢と行動をともした亀太郎の様子を伝えるとともに、亀太郎の生年月日などを問い合わせている。

## 8 贈位記

原田亀太郎に対して従五位が贈られた際の贈位記。

